

1月28日 424 再編名指し病院への訪問・懇談 国立東名古屋病院 (11:00~11:35)



東名古屋病院へは、1月28日11時から懇談を行い、当局側は2名(事務部長、管理課長)、要請団は、長尾、森川地方協書記長、宇野県国公事務局次長の3名が参加しました。以下の内容の懇談がされました。

*** 「資料」等の説明に対する質問や意見など**

- ・「隠れ名指し」に中京や中部労災など大きな病院が含まれていることに驚き

1) 今回の「名指しリスト」に指名されたことについての貴職の意見等について

・2017年の古いデータ、資料による評価であるとともに、マスコミ報道では「急性期」病床のみの評価ということでなく、病院そのもの、全体の評価で名指しされたように患者さんや地域住民は受け止めている。詳しく説明しても混乱すると思うが、うち(東名)などは、急性期よりも回復期や慢性期中心の病院であり、困惑した。

2) 患者・地域住民、職員の反応や寄せられた声など

・患者さんからは、診療時に質問等が出されたという報告も一部もらっている。しかし、それほど大きな声や質問が殺到しているということではない。いわゆる風評被害的な問題は起きていません。職員の採用をめぐる問題も起きていません。ただし、看護師の新卒採用は、岡崎に新病院が開院することによる大量の看護師採用の影響で、新卒採用が例年より少ない状況で困っている。

3) 貴職から、患者、地域住民、職員への対応や説明について

・2)の状況により、患者さんや地域住民へは特に何もしていない。職員に対しては、病院長名で説明文書を配布し、2017年時の病床状況と現在の状況を説明し、不安解消に努めている。

4) 当院の現状と、「再検証」対応に向けた方針・計画など

・名指しは、2017年時の「急性期」病床の患者数等による評価であり、その後、病棟集約、機能転換等を行い、改めて病床の変更は必要ないし、削減した現在の「急性期」病床は今後も必要であると認識している。その方向で地域の調整会議では説明する予定である。(地域の調整会議の日程は決まっている。他病院の事もあり、日程は言えない。遠慮したい)

現在、41床の「休床」があり、とりあえずは2025年計画でも「休床」の予定であるが、これは将来(建替え後)使う見込みであり、その点は、地域の調整会議で説明し、大方の了承を得ているものと考えている。提出している「2025年プラン」は計画の変更があれば修正し提出という対応になる。

年度	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床予定
2017年	408	0	93	60	202	53
2018年	330	0	42	92	155	41
2025年計画	330	0	42	92	155	41
差引	▲78	0	▲51	32	▲47	▲12

5) その他

- ・「結核」病床については、現状を維持することで変わりはない。
- ・「病棟」新築建替え計画は、①病院の赤字問題(返済計画)、②NHO本部にキャッシュが少ない、の2点の問題によりスタートできていない。簡単に解決は難しい。

以上

あま市民病院

1月29日(11:00~11:35)



あま市民病院へは、1月29日11時から懇談を行い、当局側は2名（事務部長、総務課係長）、要請団は、6名一長尾（全医労）、西尾（医労連）、武田（民医連）、橋口・柳・齋藤（自治労連）が参加しました。

以下の内容の懇談がされました。（懇談議事概要）

1) 今回の「名指しリスト」に指名されたことについての貴職の意見等について

・基本的に「総論賛成各論には異議」ということ。国の考える構造改革はしないといけない。しかし、今回の手法はインパクトが大きい。統廃合ありきの報道で、困惑。診療実績評価は、2017年の実績であり、当院は昨年4月から指定管理者へ移行し、市直営の時と、病床運営のすり合わせはできていない。当協会としては、協定上、市の意向を受けた中で、「病院改革プラン」に沿って運営されている。

2) 患者・地域住民、職員の反応や寄せられた声など

・特に目に見えた風評被害はなかった。市民からの問い合わせも少なかった。採用内定者からの問い合わせはあった。4~5件。

3) 貴職から、患者、地域住民、職員への対応や説明について

・患者さんや市民へは、病院HP等を通じて、お知らせを行っている。

4) 当院の現状と、「再検証」対応に向けた方針・計画など

・「指定管理者」契約は、2019年より20年間。

・現状の計画では、180床の病床内訳を、一般90床、回復期90床と計画し、今年4月には「回復期」

年度	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床
2017年	180	0	135	0	0	45
2018年	180	0	90	45	0	45
2025年計画	180	0	90	90	0	0
差引	0	0	▲45	90	0	▲45

1個病棟を開棟し90床運営の予定。それに必要な人員は、徐々に増やしてきた。十分ではないが、何とかオープンできる。

従来の「急性期」一般病床135床を90床へ、「回復期」45床を90床へ変更については、

正直、地域からの異論は若干あった。しかし、休床45床を回復期として開設することで、地域の調整会議でも合意してもらっていた。よって、1/27の地域の調整会議でも再度、計画を説明し、合意を得たと考えている。しかし、「あま地域」には公立3病院が役割分担する中で、県より何か指摘されることもあり得ると考えており、津島市民と海南病院との機能分担が今後求められるかもしれない。あま市は人口9万弱であり、公立は180床の「あま市民」だけで、名古屋市や他の公的に依存、市民が流出している。きちんと地域医療として急性期もやって、実績を積み上げれば、もっと病床は必要と考えている。そのためには、医師の確保が欠かせない。当院の強みは、地域医療振興協会として、「総合診療医」の育成、配置により、幅広い診療できる医師を配置していること。その上で、さらに高度な臓器別専門医師を配置していく事が必要。

5) その他

・「あま市民良くする会」として、学習会（シンポジウム等）を計画しているので、ぜひ病院としても参加いただきたいと要請。